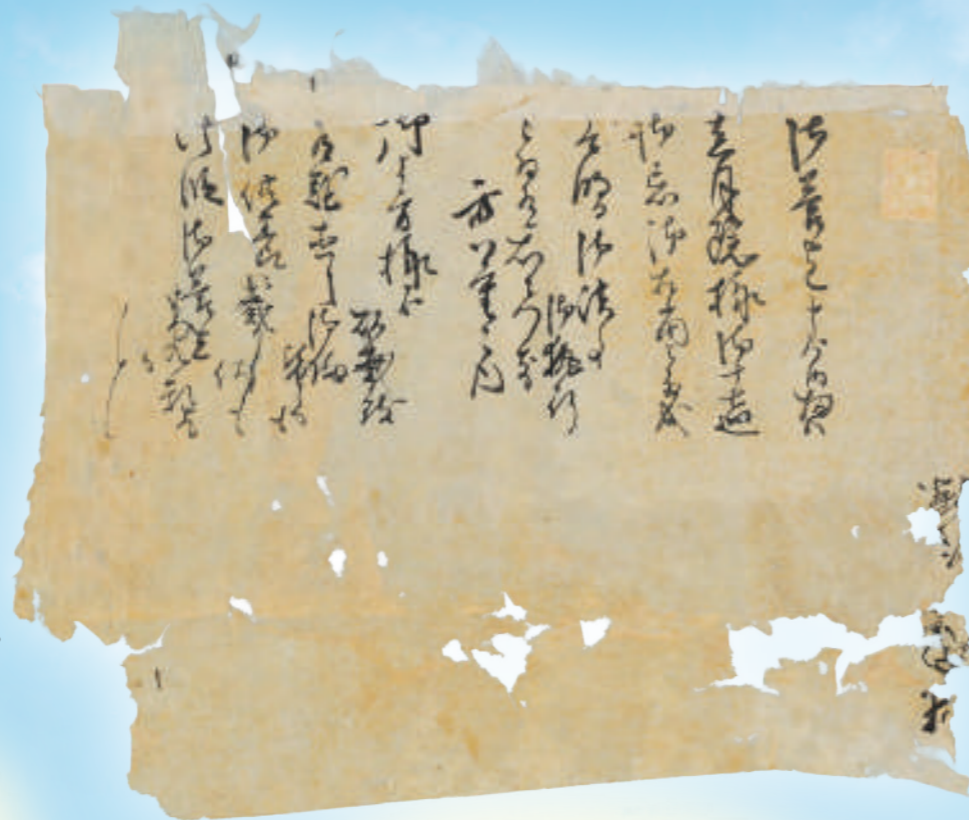


六連銭

第54号
令和7年12月発行



壁紙の下張り文書

八代藩主・真田幸貫の正室・真月院の十七回忌法要に際し、お重をもらったことについての書状。差出人は、九代藩主・真田幸教の実母・順操院で、宛先は奥女中の米田である。

特別展

真田邸下張り文書の世界

令和7年12月17日(水)～令和8年4月13日(月)

掲載内容

- ◆ 特別展「真田邸下張り文書の世界」
- ◆ 展示スケジュール
- ◆ 真田家伝来の大名道具
- ◆ 学芸レポート 1.ワークショップ 新聞ちぎり絵
- ◆ 学芸レポート 2.松代文化財ボランティアの会研修旅行

長野市デジタルミュージアム
ながの 好奇心の森

長野市デジタルミュージアム「ながの好奇心の森」では、真田宝物館をはじめとする長野市の文化財データベースを公開しています。あわせて高画質な画像もご覧いただけます。



ながの好奇心の森へはコチラから

知れば知るほど
おもしろい!

真田家伝来の大名道具

令和7年12月17日(水)～令和8年4月13日(月)

大名道具Ⅱ

御手鑑

箱蓋表には「久光公御筆 御手鑑」とあり、蓋裏には「明治十二年より、いただいた御詩御歌を御手鑑にして秘め置く」、続けて「明治十七年申の秋、輯子」と墨書される。「輯子」は薩摩藩の島津久光の養女であり、十代藩主・真田幸民の継室となった人物。久光の絵入り短冊や和歌などからなる大型の折本。



大名道具Ⅰ

短刀 無銘 高木貞宗



「遠州様」なる人物から真田家へ贈られたもの。薄手で反りがあり、品のある姿をしている。寛永十六年(一六三九)の本阿弥光温の折紙が付属し、高木貞宗と鑑定される。貞宗は相州貞宗の子という説があり、近江国(現在の滋賀県) 高木に在した刀鍛冶。

真田家の歴史

卯の花茶壺

伝来によると、文禄・慶長の役の折り、肥前国名護屋に従軍した真田昌幸が豊臣秀吉から拝領したと伝わる。信長・秀吉が書院の飾り道具に用いたことから、諸大名もこれにならない、競って茶壺を求めた。千利休の時代には茶器の中でも筆頭道具として尊重された。



学芸レポート ①

ワークショップ 新聞ちぎり絵

10月25日(土)、「新聞でちぎり絵を描いてみよう」を開催しました。真田信之所用と伝わる萌黄糸毛引威二枚胴具足の画像を見本に、新聞のカラー写真を使用して作りました。手でちぎることで思いもよらない形ができ、味のある色とりどりの甲冑デザインになります。見本とは違う色や文字のある部分をあえて残すことで、オリジナルにあふれる作品になりました。



学芸レポート ②

松代文化財 ボランティアの会研修旅行

10月30日(木)、松代文化財ボランティアの会の研修旅行で高遠を訪れました。おもに高遠城址公園や伊那市立高遠町歴史博物館などを見学しました。当日は天気にも恵まれ、城址ではガイドさんの案内、博物館では学芸員さんに説明をしていただきました。研修旅行で、今後のボランティア活動に活かせる点などを改めて皆で考えました。



真田邸

下張り文書の世界

平成十六年（二〇〇四）から八年間にわたり、真田邸（新御殿）は、創建から初めて全面改修工事が行われました。その際に真田邸から外された一〇〇枚を超える襖や壁紙から見つかった大量の下張り文書を、真田宝物館と松代文化財ボランティアの会会員有志が協働で整理を行ってきました。これまでに、平成二十六年「襖に眠る古文書たち」、令和元年「襖から目覚めた古文書たち」の、二回の企画展によって、それまでの成果を発表しています。この度、約十四年に渡る整理作業がほぼ終了する見通しとなったことから、その集大成として、特別展「真田邸下張り文書の世界」を開催します。

真田邸は、松代藩真田家が城主を務めた松代城の附として国の史跡指定を受けている城外御殿で、松代城の建物の遺構としては唯一のもので、元治元年（一八六四）に、九代藩主・真田幸教の義母・貞松院の住居として建てられました。その後隠居した幸教の住まいとなり、明治時代以降は真田家の私邸として使われていました。居住者や用途の変更にもなっており部分的に増改築・改修がなされていますが、襖や壁紙も折々に貼替が行われていたと思われま。下張りに使われる文書の多くは、不要になった「反故紙」です。何枚も重ね貼りすることで襖には断熱や保温の機能が、壁には躯体保護の機能などが備わります。下張り文書から貼替時期を特定することは難しいですが、ある程度は推定することができます。

これまでの作業で確認できた下張り文書は、模様のある一番外側の唐紙保護のために剝がし作業ができない文書も含めて約七〇〇〇点余りあり、そのうち七割から八割ほどは、商家が作成した帳簿類をほどこいたものです。そのほかは、松代藩の役所で作成され、不要になったと思われる文書や、明治時代に入ってから、真田家の家政の中で作られたものに加え、ごくわずかですが、奥女中どうしの手紙なども見つかっています。今後、さらに分析を加えることで、書かれた内容だけでなく、どのようなものが廃棄の対象となり、下張り文書に利用されたのか、また商家の反故紙がどのように流通して使用されたのかなど、様々な事柄が分かってくるものと考えられます。

下張り文書の整理と

松代文化財ボランティアの会

真田邸下張り文書の整理作業開始から約十四年。松代文化財ボランティアの会の有志の方々と協働で行われた作業は、日々意見を交わし現在も続けられています。

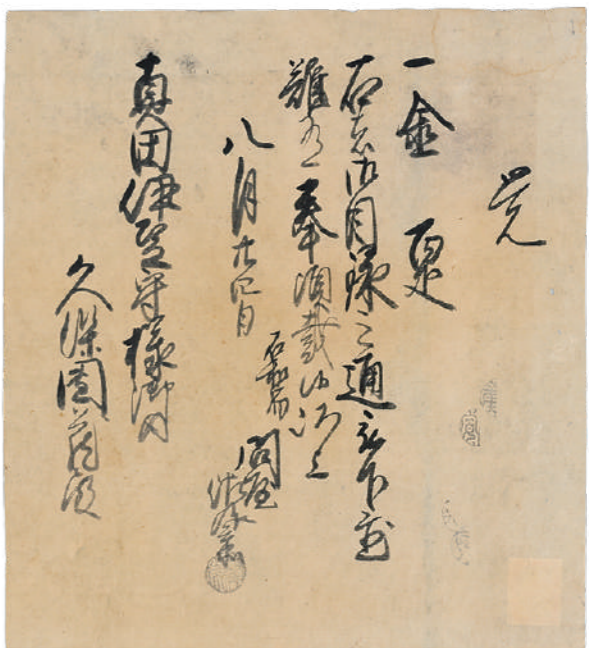
下張り整理作業に参加されたボランティア会員は、開始からこれまで、のべ約五〇〇〇人、作業日数は一〇〇〇日にも及びます。週に二日、真田宝物館のオープンスペースで、「原状に戻すことができるような正確な記録と丁寧な作業をする」ことを目標に、それぞれが得意なことを發揮し進めました。細かな作業の連続で難航することもありましたが、専門の方々に直接指導していただいたり、同様の活動をしている先進地に研修に赴いたりして試行錯誤を重ね、方法や技術を習得してきました。そして判断に困る場面でも、参加者同士が相談し協力しながら進めることが出来ています。過去の企画展では、展示内容の検討や看板製作、会員の手による展示作業や展示解説も行われました。

整理作業は会員を中心に進めています。博物館実習生や地元の中学生の職場体験、インターンシップの学生や子ども向けイベントの中の一つとしても行い、活動を広めると共に楽しんでいただいています。

しかし長期に渡る作業の中で、新型コロナウイルス感染症大流行という、ボランティア活動が制限される出来事も起きました。当時は、活動したいけれど集まることができない、そんな葛藤の中で作業でしたが、このような時だからこそできる活動をしようと切り替え、感染症対策を講じつつより無理のない活動ができたように思います。

この時、当館ではボランティア会員を対象に、コロナ禍における博物館ボランティアの在り方や、皆で学ぶことにより資料や文化財への理解をより深める事を目的とした新たな講座「学ぼう会」をはじめました。ここでは様々

下張り文書の一部を ご紹介



覚

一、金 百疋 (割印) (割印)
右者御目録之通被下置 (割印) (割印)

難有奉頂戴候、以上、
八月廿四日 石和宿

問屋

佐治兵衛(印)

真田伊豆守様御内
久保団蔵殿

六代藩主・真田幸弘は、天明四年（一七八四）の参勤交代で江戸

から松代に戻る時、前年の浅間山大噴火の影響で、例年通行している中山道が通れなくなり、甲州街道を使用しました。その際、宿泊や休憩、人馬の調達など街道沿いの宿場に支払った代金の受取覚が下張りから多数見つかりました。これは、石和宿の問屋が発行した受取覚です。宛先は「久保団蔵」で、宿場と直接やり取りをしていた松代藩の下級役人とみられます。

参勤交代時にこうした代金の支払いはいは毎行われていたはずですが、真田邸下張り文書から見つかったのはこの年の受取覚のみです。理由はわかりませんが、この年のものだけが廃棄され、下張りに再利用されたこととなります。割印がいくつか見えますが、この覚を松代藩の拡方などの担当者が支払いの原簿などと突き合わせて確認した印かもしれせん。今後、他の資料と総合的に見ていくことで、さらに詳しいことがわかってくるでしょう。

な学びをし、実際に資料を使つての資料整理も進めています。その活動の一つとして、特に状態が悪く、大きいため扱いが難しい真田邸の壁紙の、ほこり払いから泥の除去、洗浄や裏打ちなど、大変な作業を共に行いました。いずれの作業でも、参加した皆さんのつみ重ねが、整理の完了につながりました。参加した方々には心から感謝申し上げます。

「学ぼう会」では大きな壁紙を調査・計測しました



ボランティアさんの ひとこと

下張り文書の整理作業に欠かせない、松代文化財ボランティアの会の皆さん。真剣な表情とはまた別のいろいろな一面を持っています。作業活動中には、手は動かしながらも機械関係や音楽、旅行など様々な楽しい話をしながら作業に励んでいます。そんな皆さんに下張り文書作業についてお話をお聞きしました。

活動を始めたきっかけは？

- ・古文書に興味があったが、読むためには歴史を知りたいから
- ・歴史が好きだったから
- ・普段触れない古い文書に触れたり、調査をしたいから

大変だったことは？

- ・昔の字が読めない、読めればおもしろそう
- ・なかなか剥がれない時や細かい作業が大変
- ・解読すると、昔の人の銭勘定が難しく疑問が沢山ある

面白かったこと

- ・一文字読めただけでとてもうれしかった
- ・切れている部分がピタリと合致するとおもしろい
- ・泥だらけの文書を洗浄してきれいになると嬉しい
- ・帳簿ばかりだが、たまに書状があると読むのが楽しい

今後の活動について

- ・どんな文書があるのか楽しみ
- ・真田邸の下張り文書は松代以外のものが多い
- ・ぜひ松代藩や周辺に関するものを読みたい
- ・解読には慣れが必要なので、ぜひ読める人を育てることが大事
- ・もっともっと歴史を知りたい

「何が書いてありますか？」
来館者も興味津々



優しく優しく、一枚一枚
ていねいに洗います

剝がし作業は、
細かな作業の連続

真田宝物館 展示 スケジュール

令和7年

令和8年

4月

5月

6月

真田邸下張り文書の世界

12月17日(水)～4月13日(月)

資料からよみとく
松代藩士・赤澤家の歴史

4月15日(水)～6月21日(日)

館内消毒のため休館

6月22日(月)～26日(金)

松代城 花の丸御殿

6月27日(土)～



曲大直小四巻